（別紙様式）

平成２５年度　　学 校 評 価 シ ー ト

学校名：和歌山県立桐蔭高等学校　　学校長名：宮　下　和　己　　印

目指す学校像・育てたい生徒像	「文武両道」「改革と伝統」の校訓校是のもと、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図り、夢や目標を実現し、自立した市民として社会や世界に貢献できる人材を育成する学校

本年度の重点目標（学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する）	
	１　主体的な学習姿勢の育成と教員の更なる指導力向上に取り組む
	２　生徒に進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組を行う
	３　自主的・自律的な生活習慣・学習習慣を確立させる
	４　中高連携による一貫教育の具体的方策の提示を行う

達成度			
	A	十分に達成した	（８０％以上）
	B	概ね達成した	（６０％以上）
	C	あまり十分でない	（４０％以上）
	D	不十分である	（４０％未満）

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

（注）１　重点目標は３～４つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。　２　番号欄には、重点目標の番号を記入する。　３　評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
４　年度評価は、年度末（３月）に実施した結果を記載する。　５　学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自　己　評　価

重点目標					年度評価（２月６日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	生徒の学力をより高いレベルまで伸ばすことが、現在の課題である。目的意識を持たせることで、学習時間を増加させるとともに主体的な学習態度の育成を図る取組が必要である。	主体的な学習態度を育成するために、生徒に計画的に課題を提示し、授業内容の改善に取り組んでいるか。 生徒の実態把握に努め、きめ細かく継続的な指導を行っているか。 学習指導方法の改善に取り組んでいるか。	・研究授業・公開授業の実施、また校内研修等による「授業力」の向上 ・進学補習や遅進者補習の充実	・研究授業・公開授業の実施 ・校内研修・現職教育の実施 ・補習実施の総時間数	研究授業や公開授業は経験年数に関係なく各教科で実施され、また校内研修は初任者を中心に継続的に行われた。補習については今年度から他の行事との関係もあり総時数は減った部分もあったが、出席率は上昇した。今後も中身も含め、さらに他校での実施内容等も参考にしながら充実させていきたい。 家庭学習２時間未満の生徒の割合は近年変化が見られない。教科間・学年間の連携及び協議は今後も必要である。	B	次年度の研究開発に向け、教科会が多く実施され、教科や科目の目標等について共有されたと思われる。その実現に向け個々・教科間だけの理解だけでなく「組織」としての体制を整える必要がある。また家庭学習時間の増加に向けて、学校・生徒・家庭の連携はもちろん、いかに教師が動機付けをし、主体的な学習態度を育成できるかが今後の課題である。
			・学年・教科等の連携による継続的な家庭学習時間確保の指導	・実態調査における家庭学習２時間未満の生徒の割合の減少			
			・家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科間の情報交換協議	・学年会での情報交換・協議の実施			
2	生徒の多くは、入学時より大学進学を目指し、将来を見据えた高い志を持っている。この生徒たちに必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促し、一人ひとりの進路希望の実現と将来に向けた組織的かつ系統的なキャリア教育が必要である。	生徒のキャリア発達を促し、自らの進路実現に向けて意欲的に取り組めるよう、具体的な取組が系統立てて展開されているか。 社会に貢献できる人材育成のために、基礎的・汎用的能力を育成するための指導を組織的に行っているか。	・研究開発学校指定１年目としての取組の達成	・全体計画及び指導計画の作成 ・評価指標の策定 ・平成２６年度実施の教材開発	研究開発に係る取組については、年度当初に立てた計画に部分修正を加えながら、企図したところは達成できた。 「進路だより」は各学年１０回以上発行、進路講演会を各学年１回実施することで、生徒に対する進路意識を高めることができた。今年度も多くの生徒がオープンキャンパスに参加したが、特に京大には６４名、東大には５１名が参加した。桐蔭総合大学は１９講座を予定している。これ以外にも進路ＨＲ、総合学習、三者及び二者面談等を通して、進路計画に沿って進路教育が実践できている。 現職教育や模試成績分析会、進路検討会をそれぞれ数回実施し、生徒情報の共有に努めるとともに、教員の指導力の向上が図られた。	A	今年度作成した全体計画及び指導計画を来年度本格実施するにあたり、今まで行って来た具体的な取組を適宜改善していく必要がある。これまでの成果を踏まえながら、新たな教育活動に取り組んでいきたい。 学校評価ｱﾝｹｰﾄによると、「個に応じたｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの実施」については「不十分である」との回答が職員と比較して、生徒や外部からやや多くなっている。より効果的な指導方法を検討し、また、進路情報の提供や発信方法も検討したい。
			・「進路だより」を活用した進路講演会やオープンキャンパス、桐蔭総合大学等への積極的な参加の啓発	・開催回数や参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査			
			・３年間の進路計画に沿った日常的な面談を通してのキャリアカウンセリングの実施	・生徒の進路選択に対する意欲や進路意識の変容			
			・教員の指導力強化と生徒情報の共有のための現職教育、進路検討会や成績分析会議の実施	・実施回数と教員への事後調査			
3	生徒は概ね規律ある学校生活を営むことができているが、遅刻、身だしなみ等において課題の残る生徒もいる。学習活動、クラブ活動、学校生活全般について常に自主的・自律的に取り組める力強い生徒集団をはぐくむ必要がある。	生徒が自律的な生活態度を身に付け自己管理力を高めていくための、 ・遅刻指導 ・交通安全指導 ・身だしなみ指導 ・下校指導 が適正に行われているかどうか。	・年間を通じての毎朝の校門指導実施	・通年遅刻者数の前年度比減 ・遅刻者０日の増加	一日平均遅刻者数は 5.3 人で昨年度比－0.5 人。冬場にかけての遅刻者が微増した。 校内駐輪指導を 3 回、PTA との交通指導週間を 2 回実施、9 月からは近郊 8 カ所にて自転車安全指導を行い、一定の成果が得られた。 学年身だしなみアセンブリーは行事の都合で 10 月に実施できず、また日頃からの指導の徹底もやや不十分だった。 下校指導週間を設定したが、生徒の日頃からの完全下校意識を十分高めるまでには至らなかった。	B	遅刻０週間や日々の個別指導を充実させ遅刻者減を目指す。 隔週ごとの近郊での安全指導を継続するとともに、日頃の安全意識の啓発に心がける。 計画どおりアセンブリーを実施する。身だしなみ指導に対する職員の意識の徹底を図る。 19 時下校の意義を踏まえた上で継続的、計画的な指導を行っていきたい。
			・交通規則の遵守、交通マナーアップ ・安全意識と公共心の育成	・年３回の駐輪指導 ・ＰＴＡと連携した自転車通学に係る交通指導			
			・正しい服装・頭髪についてアセンブリー等あらゆる機会を通した啓発	・年３回の学年別身だしなみアセンブリ実施			
			・19：00 完全下校制度の継続実施	・下校時間遵守の計画的指導			
4	中高一貫を扱う委員会組織が中学校設立当時のままであったため、具体的で実際的な事項に関する検討が停滞する傾向にある。	中高一貫の具体的な検討が進んだか。 教員の相互乗り入れについて成果と課題を見出すことができたか。	・実際的な視点を取り入れるため、中高一貫委員会を分掌長中心から教科代表者中心へと構成を変更する	・委員会の構成の見直し	今年度から委員構成が変わり教科代表中心となった。数学と英語で教員相互乗り入れが行われ、成績などの情報交換を教科会等で実施した。職員会議では学年からの報告があったが、今後全体のものとするための詳細な報告会が必要である。	B	今年度の形態になり２年が過ぎようとしている。乗り入れ教科や中身について、より充実していくよう検討する必要がある。また教科会の日程連絡が不十分な面もあったので、中高の連携を密にすべきである。
			・相互乗り入れを行う教員を中心とした情報と意見の交換会を開催する	・年間３回以上の情報意見交換会の実施			

学　校　関　係　者　評　価

平成２６年２月１８日　実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

学校長より、文部科学省研究開発学校の取組の進捗状況をはじめ、本校の 1 年間の教育活動についての概要説明、ならびに生徒評価・外部（PTA 幹事役員及び学校評議員）評価・教職員評価の結果を踏まえて、次のような意見を頂いた。

（１）学校の取組が外部にも分かり易くなって、敷居が低くなっていると感じる。地域や関係団体との連携も進んでいるようである。連携が進むほど要請や期待も大きくなると思うので、今後とも引き続き取組を進めてほしい。

（２）キャリア教育に対する取組を聞き、今回作成した『桐蔭の学び』を用いて「なぜ学ぶのか」を説くのは意義深いと感じる。自分の高校時代をふり返ると、こういう指導が欲しかった。

（３）中学校 1 年生から高校 3 年生までの異年齢集団の中で様々な学校行事があり、充実してきている。

（４）中高の生徒会が一緒になって地域の清掃活動を行うなど、様々な側面で中高の連携が進んでいる。ソフト面だけでなく、施設等のハード面も含め、生徒、教職員で工夫されたい。